発達心理論I				単位数	2単位
授業コード	D5120	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	湯澤　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神機能論				

本授業の概要

人間の生涯発達のプロセスを，人類の歴史・発生のメカニズムを踏まえた上で，認知・自己理解・社会性・情動の観点から明らかにするとともに，人間が生涯にわたって成長し続ける存在であることのアリティを物語とナラティブをベースとし，特に，胎児期から幼児期までを中心に紐解いていく。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	人間の生涯発達のプロセスを多面的にとらえることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	人間の生涯発達のプロセスを自らの言葉で説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	毎授業の発表内容やレポートを総合的に判断して評価する。 レポート７０％	1／2
2	発表内容３０％	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．人類の進化のプロセスをたどる①
２．人類の進化のプロセスをたどる②
３．人間の発生のメカニズムを学ぶ①
４．人間の発生のメカニズムを学ぶ②
５．生涯発達理論を学ぶ-諸発達理論を中心に①
６．生涯発達理論を学ぶ-諸発達理論を中心に②
７．生涯発達理論を学ぶ-「発達」と「育ち」の議論を中心に③
８．生涯発達理論を学ぶ-「発達」と「育ち」の議論を中心に④
９．認知発達の基盤-胎児期と新生児期
10. 認知発達の基盤-乳児期
11. 認知発達の基盤-児童期
12. 認知発達の基盤-中年期
13. 認知発達の基盤-高齢期
14. 自己の発見と自己理解-乳児期
15. 自己の発見と自己理解-幼児期

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中の内容を整理するとともに、疑問や不明な点を明らかにし、批判的に考えたことを言語化し、まとめる。（授業前・授業後各1時間、総計30時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
随時指示をする。
オフィスアワー
水曜日３限
連絡先
yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
特になし

発達心理論II				単位数	2単位
授業コード	D5125	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	湯澤　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神機能論				

本授業の概要

人間の生涯発達のプロセスを，人類の歴史・発生のメカニズムを踏まえた上で，認知・自己理解・社会性・情動の観点から明らかにするとともに，人間が生涯にわたって成長し続ける存在であることのアリティを物語とナラティブをベースとし，特に，児童期から高齢期までを中心に紐解いていく。人間の発達を，改めて関係論的に解釈したうえで，人間の成長を物語として語っていく。最終的には，発達心理学の限界を知り，今後の研究の発展について考察を深める。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	人間の生涯発達のプロセスを多面的にとらえることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	人間の生涯発達のプロセスを自らの言葉で説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	毎授業の発表内容やレポートを総合的に判断して評価する。 レポート７０％	1／2
2	発表内容３０％	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．自己の発見と自己理解-児童期
２．自己の発見と自己理解-青年期
３．自己の発見と自己理解-中年期
４．自己の発見と自己理解-高齢期
５．関係性の発達-親子
６．関係性の発達-親密な他者
７．関係性の発達-社会的ネットワーク
８．物語から学ぶ-心の発見のプロセス
９．物語から学ぶ-自己の生成のプロセス
10．物語から学ぶ-他者の発見のプロセス
11．物語から学ぶ-自己の再生のプロセス
12．物語から学ぶ-自己の受容のプロセス
13．自己を語る-ライフストーリ-
14．わたしたちを語る-ナラティブ
15．授業のまとめ-発達心理学の限界と今後の可能性

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業中の内容を整理するとともに、疑問や不明な点を明らかにし、批判的に考えたことを言語化し、まとめる。（授業前・授業後各1時間、総計30時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
随時指示をする。
オフィスアワー
水曜日３限
連絡先
yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
特になし

心理学研究法論I				単位数	2単位
授業コード	D5130	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	日下　紀子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神機能論				

本授業の概要

人間の営みや行動は総じて心理的なダイナミズムや精神活動が具現されたものということもできる。諸領域の研究対象の中に存在する心理学的現象を捉え、これを研究デザインの中に組み込む方法について考究する。
実験法・観察法・面接法・質問紙法・事例研究法の基礎を理解するとともに、研究課題に応じた研究方法を具現化するために、先行研究をレビューし、そこで見出される新たな課題について検討する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	人間行動や社会現象の中に潜む心理的要因を心理学的概念に着床させ、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	研究課題を論理的、科学的に多角的視座にて捉え、研究方法として具現化することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	先行研究をもとに得られた知見から研究課題を心理学的に論理的に考察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	中間課題レポート　40%	1／2／3
2	期末課題レポート　40%	1／2／3
3	論文作成　20%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わり、事例研究、調査研究を行ってきた経験を活用し、現代社会における臨床的課題に関する最新の知見や研究文献をとりあげていく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生の勤務時間などを勘案し相談の上、個別もしくは複数で行う。
１．研究テーマのさらなる追究
２．関連する先行研究文献抄読１
３．文献レビュー
４．問題提起とその検討
５．研究計画案とモデルの策定
６．研究データの収集と分析方法の再検討
７．研究データの結果処理
８．研究データの分析
９．研究データの考察
10．調査・研究の総合考察
11．調査・研究の現時点の限界
12．調査・研究の今後の展望
13．調査・研究の推敲
14．調査・研究のまとめ
15．調査・研究の発表

定期試験
期末課題レポート
試験のフィードバックの方法
レポート返却
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
研究に関する先行研究のレビューは常に予習として行う。少なくとも1時間 新たな課題や問いに対する主体的な振り返りを行うこと。少なくとも1時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
選ばれるテーマに関する先行研究、文献、データその他を随時、検索し、配布ならびに指示する。
オフィスアワー
木曜日4限目
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
受講者自身の体験や実感を重ね合わせて先行研究や事象から問いを立てることを促し、その問いを追究、考察し、誠実に討論をすすめる。

心理学研究法論II				単位数	2単位
授業コード	D5135	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	日下　紀子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神機能論				

本授業の概要

人間の営みや行動は総じて心理的なダイナミズムや精神活動が具現されたものということもできる。諸領域の研究対象の中に存在する心理学的現象を捉え、これを研究デザインの中に組み込む方法について考究する。
実験法・観察法・面接法・質問紙法・事例研究法の基礎を理解するとともに、研究課題に応じた研究方法を具現化するために、先行研究をレビューし、そこで見出される新たな課題について検討する。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	人間行動や社会現象の中に潜む心理的要因を心理学的概念に着床させ、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	研究課題を論理的、科学的に多角的視座にて捉え、研究方法として具現化することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	先行研究をもとに得られた知見から研究課題を心理学的に論理的に考察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	中間課題レポート　40%	1／2／3
2	期末課題レポート　40%	1／2／3
3	論文作成　20%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わり、事例研究、調査研究を行ってきた経験を活用し、現代社会における臨床的課題に関する最新の知見や研究文献をとりあげていく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生の勤務時間などを勘案し相談の上、個別もしくは複数で行う。
１．研究テーマのさらなる追究
２．関連する先行研究文献抄読１
３．文献レビュー
４．問題提起とその検討
５．研究計画案とモデルの策定
６．研究データの収集と分析方法の再検討
７．研究データの結果処理
８．研究データの分析
９．研究データの考察
10．調査・研究の総合考察
11．調査・研究の現時点の限界
12．調査・研究の今後の展望
13．調査・研究の推敲
14．調査・研究のまとめ
15．調査・研究の発表

定期試験
期末課題レポート
試験のフィードバックの方法
レポート返却
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
研究に関する先行研究のレビューは常に予習として行う。少なくとも1時間 新たな課題や問いに対する主体的な振り返りを行うこと。少なくとも1時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
選ばれるテーマに関する先行研究、文献、データその他を随時、検索し、配布ならびに指示する。
オフィスアワー
木曜日4限目
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
受講者自身の体験や実感を重ね合わせて先行研究や事象から問いを立てることを促し、その問いを追究、考察し、誠実に討論をすすめる。

人間性教育論Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	D5180	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小林　修典				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神機能論				

本授業の概要

人間性の陶冶は、一人ひとりの個性・可能性と環境との相互作用であると考え、
そのプロセスにかかわる、さまざまな要因について考察する。
今期は、青少年期における、人間形成の過程を発達段階ごとにたどりながら、その段階ごとの発達課題に理解を深め、また、それぞれの段階に固有の環境的要因を分析する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	発達段階ごとの人間性の陶冶に関する課題と、その段階固有の環境要因を指摘し、分析することができる。	
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業参加（発表等）、課題（レポート等）を総合的に評価する。(100 %)	1
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　イントロダクション
2　人間形成の主要テーマ
3　個性と環境
4　乳幼児期における人間性の陶冶　①
5　乳幼児期における人間性の陶冶　②
6　乳幼児期における人間性の陶冶　③
7　児童期における人間性の陶冶　①
8　児童期における人間性の陶冶　②
9　児童期における人間性の陶冶　③
10　青年期における人間性の陶冶　①
11　青年期における人間性の陶冶　②
12　青年期における人間性の陶冶　③
13　青年期における人間性の陶冶　④
14　生涯発達と人間性の陶冶
15　まとめ

定期試験
期末レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
コメントを付して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
次週に予定されているテーマにかんして、資料の該当部分を精読し、関連する話題をまとめておく。（3時間） 復習として、期末レポートに向けて、学習内容を整理する。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
そのつど指示する。
オフィスアワー
授業時に指示する。
連絡先
shusuke@post.ndsu.ac.jp
留意事項
使用するテキストは主として英語論文である。

人間性教育論II				単位数	2単位
授業コード	D5185	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小林　修典				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神機能論				

本授業の概要

人間性の陶冶は、一人ひとりの個性・可能性と環境との相互作用であると考え、
そのプロセスにかかわる、さまざまな要因について考察する。
今期は青少年の人間性の陶冶の環境として、家庭、教育機関、社会に注目し、それぞれが個人の人間形成に果たす役割と、また、それぞれの場での、人間性に関する価値観の形成の問題を分析する。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	さまざまな環境が人間性の陶冶に果たす役割と、そこでの人間性に関する価値観の形に関する課題を指摘し、分析することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業参加（発表等）、課題（レポート等）を総合的に評価する。（100%）	1
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　イントロダクション
2　人間発達と環境　①
3　人間発達と環境　②
4　家庭での人間性の陶冶　①
5　家庭での人間性の陶冶　②
6　家庭での人間性の陶冶　③
7　家庭での人間性の陶冶　④
8　教育機関での人間性の陶冶　①
9　教育機関での人間性の陶冶　②
10　教育機関での人間性の陶冶　③
11　教育機関での人間性の陶冶　④
12　社会での人間性の陶冶　①
13　社会での人間性の陶冶　②
14　社会での人間性の陶冶　③
15　まとめ

定期試験
期末レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
コメントを付して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
次週に予定されているテーマにかんして、資料の該当部分を精読し、関連する話題をまとめておく。（3時間） 復習として、期末レポートに向けて、学習内容を整理する。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
そのつど指示する。
オフィスアワー
授業時に指示する。
連絡先
shusuke@post.ndsu.ac.jp
留意事項
使用するテキストは主として英語論文である。

描画発達論I				単位数	2単位
授業コード	D5190	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小田　久美子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神機能論				

本授業の概要

本授業では、子どもの描画発達に関する先行研究を概観するため、文献を購読して理解する。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	到達目標１．子どもの発達と描画活動の関係について学びながら、問題の所在を明らかにしていく。	知識・技能
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題提出 30%	1
2	口頭発表30%	1
3	試験40%	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業計画
第 １ 回： はじめに
第 ２ 回： 『美術からの描画指導』第１章　なぜ絵を描くのか
第 ３ 回： 『美術からの描画指導』第２章　私たちはいかにして描くことを学ぶのか
第 ４ 回： 『美術からの描画指導』第３章　総合的な描画プログラム
第 ５ 回： 『美術からの描画指導』第４章　描画の定義とその延長
第 ６ 回： 『美術からの描画指導』第５章　美術作品を通しての描画指導
第 ７ 回： 『美術からの描画指導』第６章　様式化
第 ８ 回： 『美術からの描画指導』第７章　観察
第 ９ 回： 『美術からの描画指導』第８章　人工物や自然の形態からの制作
第 10 回： 『美術からの描画指導』第９章　意味と表現のための画面構成
第 11 回： 『美術からの描画指導』第 10 章　記憶による描画
第 12 回： 『美術からの描画指導』第 11 章　空間の構造
第 13 回： 『美術からの描画指導』第 12 章　動き
第 14 回： 『美術からの描画指導』第 13 章　言語から視覚へ
第 15 回： 『美術からの描画指導』第 14 章　美術の中の芸術性
定期試験

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業開始後の、計画にしたがった円滑な進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる（毎回60分）。準備の内容は、各授業ごとに通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
B・ウィルソン /M・ウィルソン『美術からの描画指導 - アメリカ DBAE の新しい指導法 -』『小学校学習要領』『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
オフィスアワー
オフィスアワーは、授業時に指示する。
連絡先
oda9@post.ndsu.ac.jp
留意事項
必要に応じ適宜指示する。

描画発達論II				単位数	2単位
授業コード	D5195	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小田　久美子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神機能論				

本授業の概要

本授業では、子どもの描画発達に関する先行研究を概観するため、様々な文献を購読して理解する。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	到達目標１．子どもの発達と描画活動の関係について学びながら、問題の所在を明らかにしていく。	知識・技能／思考・判断・表現力
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題提出 30%	1
2	口頭発表 30%	1
3	定期試験 40%	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業計画
第 1 回：はじめに
第 2 回：なぜ絵を描くのかについて
第 3 回：私たちはいかにして描くことを学ぶのかについて
第 4 回：総合的な描画プログラムについて
第 5 回：描画の定義とその延長について
第 6 回：美術作品を通しての描画指導について
第 7 回：様式化について
第 8 回：観察　生活からの描画プログラムについて
第 9 回：人工物や自然の形態からの制作について
第 10 回：意味と表現のための画面構成について
第 11 回：記憶による描画について
第 12 回：空間の構造について
第 13 回：動き　行動・持続・表情・感情の描画について
第 14 回：言語から視覚について
第 15 回：美術の中の芸術性について
定期試験

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
課題や口頭発表のフィードバックは次の授業時に、定期試験は後日改めて行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業開始後の、計画にしたがった円滑な進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる（毎回60分）。準備の内容は、各授業ごとに通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
『小学校学習要領』『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
オフィスアワー
オフィスアワーは、授業時に指示する。
連絡先
oda9@post.ndsu.ac.jp
留意事項
必要に応じ適宜指示する。

栄養環境論I				単位数	2単位
授業コード	D5330	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	戸田　雅裕				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	保健栄養論				

本授業の概要

環境問題は地域レベルから地球規模に至るまで多岐に渡っているが、便利で豊かな現代生活の代償でもあることからその解決は容易ではなく、また各人の立場により捉え方が異なることも問題をより複雑にしている。本講義では日々深刻化する環境問題について認識を深めるとともに、その解決に向け管理栄養士として果たすべき役割を考究する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	種々の環境問題についての理解を深めるとともに、自らの考えを構築し、適切に表現することを目的とする。	
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業態度、ディスカッションにおける積極性、ならびに研究レポートの内容等から総合的に評価する。	
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

週 1 回、上記内容についての講義を実施する。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
資料を適宜配布する。
オフィスアワー
連絡先
留意事項
身近なところから環境問題を意識するよう心掛けてほしい。

栄養環境論II				単位数	2単位
授業コード	D5335	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	戸田　雅裕				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	保健栄養論				

本授業の概要

　ヒトの健康には、遺伝要因、環境要因、生活習慣要因が大きく係わっている。
本講義では各要因が及ぼす影響について認識を深めるとともに、その解決に向け
管理栄養士として果たすべき役割を考究する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	環境要因をはじめとする各要因と健康との関係について理解を深めるとともに、自らの考えを構築し、適切に表現することを目的とする。	
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業態度、ディスカッションにおける積極性、ならびに研究レポートの内容等から総合的に評価する。	
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

週 1 回、上記内容についての講義を実施する。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
資料を適宜配布する。
オフィスアワー
連絡先
留意事項
身近なところから健康問題を意識するよう心掛けてほしい。

環境生態栄養論I				単位数	2単位
授業コード	D5340	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	佐藤　眞一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態					
研究分野（大学院）	保健栄養論				

本授業の概要

県ないし県下市町村の各種健康指標、栄養摂取関連指標を、全国ないし他都道府県・市町村との比較の中で把握し、栄養施策立案につなげるための方法を学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	既存の調査資料の探索とそれぞれの成績の解釈ができ、計画立案につなげられること。	
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業中の反応とレポートの内容から総合的に評価する。	
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．各種食事調査法の妥当性・バイアス・利活用方法。
２．国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査成績の活用。
３．人口動態統計、生命表、介護統計の活用（平均寿命、健康寿命）。
４．特定健診・保健指導成績の活用（ＫＤＢ、ＮＤＢ）。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
一般に入手可能な公的統計資料等。
オフィスアワー
連絡先
留意事項
課題探索型の積極的姿勢での受講を望む。リモートにより開講予定。

環境生態栄養論II				単位数	2単位
授業コード	D5345	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	佐藤　眞一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態					
研究分野（大学院）	保健栄養論				

本授業の概要

栄養介入施策の立案と効果検証の方法について学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	集団に応じた効果的な介入方法を理解し、介入計画立案につなげられること。	
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業中の反応とレポートの内容から総合的に評価する。	
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．ヘルシーボランティア効果と平均値への回帰。
２．実験デザインと必要サンプル数。
３．行動経済学理論を援用した介入方法。
４．行政におけるアプローチとその評価。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
一般に入手可能な公的統計資料等。
オフィスアワー
連絡先
留意事項
課題解決型の積極的姿勢での受講を望む。リモートにより開講予定。

環境微生物論I				単位数	2単位
授業コード	D5350	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	長濱　統彦				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	保健栄養論				

本授業の概要

自然環境に生息する真菌を中心とした微生物の生態を学び、環境と食品衛生との接点を考察する。微生物生態学や分子系統学の手法を理解し、食に関わる微生物に適用していく。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	微生物生態学や分子系統学の手法を理解し、食に関わる微生物に対して実践できるようになる	
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	論文読解、実験、研究論文の内容と姿勢により総合的に評価する	
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１：微生物の進化と系統
２：遺伝子を用いた生物系統の推定法
３：微生物群集の解析法

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
関連する学術論文を使用する
オフィスアワー
連絡先
留意事項
コンピュータプログラムを用いた解析を随時行う

環境微生物論II				単位数	2単位
授業コード	D5355	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	長濱　統彦				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	保健栄養論				

本授業の概要

微生物が生産する二次代謝産物の分子進化学的解析法を学ぶ。微生物生態学や分子系統学の手法を理解し、食に関わる微生物に適用していく。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	微生物生態学や分子系統学の手法を理解し、食に関わる微生物に対して実践できるようになる	
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	論文読解、実験、研究論文の内容と姿勢により総合的に評価する	
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１：真菌の進化と生態
２：真菌の二次代謝産物と多様性
３：かび毒の生合成系と検出法

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
関連する学術論文を使用する
オフィスアワー
連絡先
留意事項
コンピュータプログラムを用いた解析を随時行う

生体機能調節論I				単位数	2単位
授業コード	D5360	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	林　泰資				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	保健栄養論				

本授業の概要

身体機能は，神経系，内分泌系，免疫系によって調節されている。本講義では，特にストレス制御に関わる恒常性維持機構に焦点をあてて，神経生理学的および行動薬理学的観点から考究する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ストレス制御に関わる神経系および内分泌系の生理学的理解を通じて，人々の健康の保持・増進に寄与できる研究者，および高度専門業務に携わる人材育成を目指す。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業態度および課題レポート等を総合して評価する。	
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

ストレス制御に関する講義を行うとともに，最新の文献を輪読し討論を行う。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前に与えれれた資料に目を通しておくこと。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
毎回，授業資料を配付する。
オフィスアワー
月曜日５限
連絡先
yhayashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
特になし。

生体機能調節論II				単位数	2単位
授業コード	D5365	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	林　泰資				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態					
研究分野（大学院）	保健栄養論				

本授業の概要

身体機能は，神経系，内分泌系，免疫系によって調節されている。本講義では，
特に免疫系とアレルギー疾患に焦点をあてて考究する。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	免疫系とアレルギー疾患の生理学的，病理学的理解を通じて，人々の健康の保持・ 増進に寄与できる研究者，および高度専門業務に携わる人材育成を目指す。	
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業態度および課題レポート等を総合して評価する。	
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

免疫系とアレルギー疾患に関する講義を行うとともに，最新の文献を輪読し討論
を行う。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
毎回，授業資料を配付する。
オフィスアワー
連絡先
留意事項
特になし。

食品栄養論I					単位数	2単位
授業コード	D5380	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	小林　謙一					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態						
研究分野（大学院）	保健栄養論					

本授業の概要

　アミノ酸栄養の不良およびアミノ酸代謝の異常が、各種疾患の病態とどのような関連性をもっているのかについて、最新の知見をもとに論ずるとともに、それらの疾患を予防するための栄養改善の可能性について考究する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	アミノ酸栄養・代謝に関する断片的な科学情報を統合的に理解する能力を身につけ、栄養と病態にまつわる今日的課題を解決できる「考え方」と「行動力」を身につける。	
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度　10点 論文読解　20点 課題発表　30点 課題レポート　40点	
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

第 １ 回：オリエンテーション
第 ２ 回：アミノ酸栄養・代謝と糖尿病
第 ３ 回：アミノ酸栄養・代謝と脂質異常症
第 ４ 回：アミノ酸栄養・代謝と高血圧
第 ５ 回：アミノ酸栄養・代謝と癌
第 ６ 回：アミノ酸栄養・代謝と脳神経疾患
第 ７ 回：アミノ酸栄養・代謝と細胞内シグナル伝達機構
第 ８ 回：アミノ酸栄養・代謝と遺伝子発現調節とエピジェネティカルな制御
第 ９ 回：アミノ酸栄養・代謝と骨代謝
第 10 回：アミノ酸栄養・代謝と筋肉
第 11 回：アミノ酸栄養・代謝とフレイル
第 12 回：アミノ酸栄養・代謝の最新解析法（１）
第 13 回：アミノ酸栄養・代謝の最新解析法（２）
第 14 回：ニュートリシューティカル的視点から見たタンパク質・アミノ酸
第 15 回：総括

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
国内外の学術論文を教材とし、適宜指示する。
オフィスアワー
連絡先
留意事項
特になし

食品栄養論II				単位数	2単位
授業コード	D5385	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小林　謙一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態					
研究分野（大学院）	保健栄養論				

本授業の概要

　ビタミン栄養の不良が、各種疾患の病態とどのような関連性をもっているのかについて、最新の知見をもとに論ずるとともに、それらの疾患を予防するための栄養改善の可能性について考究する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ビタミン栄養・代謝に関する断片的な科学情報を統合的に理解する能力を身につけ、栄養と病態にまつわる今日的課題を解決できる「考え方」と「行動力」を身につける。	
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度　10点 論文読解　20点 課題発表　30点 課題レポート　40点	
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業予定
第 １ 回：オリエンテーション
第 ２ 回：ビタミン学概論
第 ３ 回：ビタミンの分類の新展開
第 ４ 回：ビタミン栄養と脂質異常症
第 ５ 回：ビタミン栄養と高血圧
第 ５ 回：ビタミン酸栄養と癌
第 ６ 回：ビタミン栄養と脳神経疾患
第 ７ 回：ビタミン栄養と細胞内シグナル伝達機構
第 ８ 回：ビタミン栄養と遺伝子発現調節とエピジェネティカルな制御
第 ９ 回：ビタミン栄養と骨代謝
第 10 回：ビタミン栄養・代謝と筋肉
第 11 回：ビタミン栄養・代謝とフレイル
第 12 回：ビタミン栄養・代謝の最新解析法（１）
第 13 回：ビタミン栄養・代謝の最新解析法（２）
第 14 回：ニュートリシューティカル的視点から見たタビタミン
第 15 回：総括

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
国内外の学術論文を教材とし、適宜指示する。
オフィスアワー
連絡先
留意事項
特になし

調理文化論I				単位数	2単位
授業コード	D5390	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	五島　淑子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	保健栄養論				

本授業の概要

調理文化を、自然・人文・社会科学の学際領域としてとらえ、日本の調理文化の特徴とその変容と背景など総合的に論述する。さらに食育の観点からも考察を進める。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	調理は文化であるということを理解し、歴史や社会の関わりの中で日本の調理文化について述べることができる。	知識・技能
2	調理文化に関する自分の意見を論理的に述べることができる。	思考・判断・表現力
3	日常生活の中で、調理文化について主体的に考えることができる。	主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への積極性、授業内容に関する思考・発表能力	1／2／3
2	課題レポート	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回　はじめに、食文化の領域、調理文化の研究方法
第 ２ 回　世界の食文化形成
第 ３ 回　日本の食文化形成と展開
第 ４ 回　異文化接触と受容
第 ５ 回　主食の文化
第 ６ 回　副食の文化
第 ７ 回　調味料、油脂・香辛料
第 ８ 回　菓子、茶、酒
第 ９ 回　日本料理の形成と発展
第 10 回　台所・食器・食卓の文化
第 11 回　日常の食生活
第 12 回　非常の食生活
第 13 回　外食文化の成立と変化
第 14 回　行事と地域の食文化
第 15 回　家庭・地域、学校、社会における食育
課題レポート

定期試験
調理文化に関するレポートを課題とする　授業の中で提出等の指示をする
試験のフィードバックの方法
最後にコメントを返す
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと（約２時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 江原絢子・石川尚子編著『日本の食文化「和食」の継承と食育』アイ・ケイ・コーポレーション　2016.
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける 質問は随時、電子メールで受け付ける（メールアドレスは初回授業時に提示）。
連絡先
メールアドレスは初回授業時に提示
留意事項
講義での説明等に疑問がある場合は必ず確認すること。

調理文化論II				単位数	2単位
授業コード	D5395	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	五島　淑子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	保健栄養論				

本授業の概要

調理文化を、自然・人文・社会科学の学際領域ととらえ、研究の事例を紹介する。
また日本の調理文化の特徴と変容を総合的に論述する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	調理文化を歴史や社会との関わりの中で理解し、研究の視点から理解することができる。	知識・技能
2	調理文化に関する自分の意見を論理的に述べることができる	思考・判断・表現力
3	日常生活の中で調理文化の問題について主体的に考えることができる	主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への積極性、授業内容に関する思考・発表能力	1／2／3
2	課題レポート	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第 １ 回　はじめに　調理文化を研究する
第 ２ 回　縄文・弥生の食生活
第 ３ 回　オーストラリア・アボリジニの食生活
第 ４ 回　天保期長州藩の食生活（１）
第 ５ 回　天保期長州藩の食生活（２）
第 ６ 回　天保期長州藩の食生活（３）
第 ７ 回　日英饗応料理
第 ８ 回　歴食について
第 ９ 回　風土と食の営み
第 10 回　肉食の様式
第 11 回　乳食の様式
第 12 回　甘さを求めて
第 13 回　調理のお国柄
第 14 回　食作法の成立
第 15 回　まとめ
課題レポートの提出

定期試験
調理文化に関するレポートを課題とする。授業の中で提出の指示をする
試験のフィードバックの方法
最後にコメントを返す
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
次週予定されているテーマに関して、関連する話題をまとめておくこと（約2時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業時に必要に応じて資料を配布、参考文献などを紹介する。DVD も活用する。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける
連絡先
授業アドレスは、初回授業時に掲示
留意事項

食品機能論I				単位数	2単位
授業コード	D5400	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	吉金　優				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	保健栄養論				

本授業の概要

食品のもつ多様な機能性に関して，具体例を交えながら体系的に解説し，新たな機能性指標の開発や栄養指導への活用をともに考える。

アクティブラーニングの実施内容	ディベート

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	「食」のスペシャリストとして，食品のもつ機能を科学的根拠に基づいて理解できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	食品による疾病予防や健康の保持・増進の可能性についての論ずることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題発表内容（50%）	1／2
2	レポート（50%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．概論
２．食品の一次機能（1）たんぱく質の構造
３．食品の一次機能（2）たんぱく質の機能
４．食品の一次機能（3）脂質の構造
５．食品の一次機能（4）脂質の機能
６．食品の一次機能（5）炭水化物の構造
７．食品の一次機能（6）炭水化物の機能
８．食品の二次機能（1）色
９．食品の二次機能（2）味
10．食品の二次機能（3）香り
11．食品の二次機能（4）テクスチャー
12．食品の三次機能（1）整腸作用
13．食品の三次機能（2）血糖値・血圧調整作用
14．食品の三次機能（3）免疫機能亢進作用
15．総括

定期試験
課題発表およびレポート
試験のフィードバックの方法
講義内で議論する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
次回講義の関連テーマの予習（120分）および復習（120分）を行うこと。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜資料を配布する。
オフィスアワー
授業中に指示する。 質問は随時，メール等で受け付ける。
連絡先
yyoshikane@m.ndsu.ac.jp
留意事項
特になし

食品機能論II				単位数	2単位
授業コード	D5405	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	吉金　優				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	保健栄養論				

本授業の概要

食品のもつ多様な機能性に関して，具体例を交えながら体系的に解説し，新たな機能性指標の開発や栄養指導への活用をともに考える。

アクティブラーニングの実施内容	ディベート

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	「食」のスペシャリストとして，食品のもつ機能を科学的根拠に基づいて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	食品による疾病予防や健康保持の可能性についての知見を得，研究や栄養指導に活かせるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題発表内容（80%）	1／2
2	レポート（20%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．概論
２．最新研究の文献抄読・発表（1）抄読 1
３．最新研究の文献抄読・発表（2）発表 1
４．最新研究の文献抄読・発表（3）抄読 2
５．最新研究の文献抄読・発表（4）発表 2
６．機能性食品制度（1）概論
７．機能性食品制度（2）問題点
８．機能性食品制度（3）今後の在り方
９．討論（1）新たな機能性食品
10．討論（2）新たな機能性指標
11．プレゼンテーション（1）新たな機能性指標
12．討論（3）研究への活用
13．討論（4）栄養指導への活用
14．プレゼンテーション（2）研究・栄養指導への活用
15．総括

定期試験
課題発表およびレポート（20%）
試験のフィードバックの方法
講義内で議論する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
次回講義の関連テーマの予習（120分）および復習（120分）を行うこと。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜資料を配布する。
オフィスアワー
授業中に指示する。 質問は随時，メール等で受け付ける。
連絡先
yyoshikane@m.ndsu.ac.jp
留意事項
特になし。

社会福祉論I				単位数	2単位
授業コード	D5530	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	杉山　博昭				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	人間社会論				

本授業の概要

本授業では、国際的・国内的な社会状況において、社会福祉学研究が直面している課題について、思想、歴史、政治・経済政策、実践・専門職の観点から検討し、国際的な社会の変容のなかでの、社会福祉の役割と限界を検討する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	これまでの社会福祉思想を理解し、自らの思想を語り説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	社会福祉の歴史を理解し、歴史的視点で社会福祉へ提言することができる。	知識・技能／主体性
3	近年の社会福祉政策の特徴を理解し批判的視点で分析し議論することができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	発表態度・発表内容の総合的判断で評価する（50%）。	1／2
2	2 回のレポートの記述内容で評価する（50%）。	3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　社会福祉思想研究の意義
２　社会福祉思想研究の動向
　　社会福祉思想の概要と今後の論点
３　政策・実践と思想
　　思想と実践はどう切り結ぶのか
４　社会福祉の存在意義としての「生」
　　生と死・そのなかでの社会福祉の役割
５　なぜ社会福祉がなくてはならないのか
６　生命倫理と社会福祉
　　脳死、安楽死などの動きと社会福祉
７　社会福祉研究における歴史研究の意義
　　歴史研究の成果とこれからの研究の方向
８　日本についての歴史研究の到達点と課題
９　外国についての歴史研究の到達点と課題
10　社会福祉と連帯・協同
　　社会連帯や協同で社会福祉をどう創るのか
11　コミュニティと福祉
12　社会福祉運動の歴史と意義
13　社会福祉政策の動向
2000 年代以降の政策の特徴と課題
14　社会福祉研究と政策
15　これからの社会福祉政策
　　少子高齢化やグローバル化のもとでの社会福祉政策

定期試験
期末にレポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
社会福祉論Ⅱで行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
指示した課題について関係の文献をあらかじめ読む。授業後は振り返りを行い整理する。これにはそれぞれ2～3時間を要する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
岩崎晋也『福祉原理』,2018,有斐閣。このほか講読する文献を随時指示する。文献は主に、近年発刊された社会福祉の学術文献のうち、思想・理論・歴史など、総論的なものとする。
オフィスアワー
オフィスアワー　火曜2限
連絡先
sugiyama@post.ndsu.c.jp
留意事項
指定した文献を読みこなしたうえで、主体的に参加すること。

社会福祉論II				単位数	2単位
授業コード	D5535	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	杉山　博昭				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	人間社会論				

本授業の概要

本授業では、国際的・国内的な社会状況において社会福祉学研究が直面している課題にとして、財政、専門性、地域包括ケア、医療との連携などの論点を設定し、どう分析し研究者として提言できるのかを議論していく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	経済や財政と社会福祉の関係を理解し、政策を提言していくことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	社会福祉の専門性について理解し、専門性のあり方を議論することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	地域包括ケアなど今後の福祉課題について考察し、提言していくことができる。	知識・技能／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	発表態度・発表内容の総合的判断によって評価する（50%）	1／2
2	2 回のレポートの記述によって評価する（50%）	3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　社会福祉と経済
2　新自由主義と社会福祉
　　新自由主義路線は社会福祉をどう変えたか
3　経済発展は社会福祉の必須の条件か
　　長期化した経済的停滞と社会福祉の関連
4　福祉サービスの企業化をどう捉えるか
5　社会福祉と財政
6　社会福祉実践の専門性
　　ソーシャルワークをどう捉えるか
7　社会福祉国家資格の意義と限界
8　専門職養成の目標と現実
　　専門職養成は人材確保に有用か
9　少子高齢化における社会福祉の課題
10　介護問題の広がりをどう考えるか
　　増加する介護需要にどう対応できるか
11　地域包括ケアシステム
　　実現への課題は何か
12　社会福祉と医療との連携の課題
　　医療における諸課題と社会福祉との関連
13　社会福祉の国際動向
14　グローバル化のなかでの社会福祉
15　まとめ
　　社会福祉研究において、何にどう取り組むか

定期試験
レポートを2回提出する
試験のフィードバックの方法
他の授業時に行う。個別の質問も歓迎する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
指示した課題について関係の文献をあらかじめ読む。授業後は振り返りを行い整理する。これにはそれぞれ2～3時間を要する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
岩崎晋也『福祉原理』,2018年,有斐閣。このほか講読する文献を随時指示する。文献は主に、近年発刊された社会福祉の学術文献のうち、思想・理論・歴史など、総論的なものとする。
オフィスアワー
オフィスアワー　火曜2限
連絡先
sugiyama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
指定した文献を読みこなしたうえで、主体的に参加すること。

課題研究I					単位数	2単位
授業コード	D5720	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	小林　謙一					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	栄養学					

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	プレゼンテーション（自分の研究課題の設定、目的、方法、結果、そして考察に関する理解度を評価）30点	1
2	学会における研究発表　30点	1
3	原著論文や研究ノート等の原稿　40点	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．オリエンテーション・・・学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める
２．自身の研究課題に関する実験長期計画（Ｉ期）の発表・・・自身の研究課題に関する実験の長期的スケジュール（Ｉ期）を立案できるようになる
３．自身の研究課題に関する実験中期計画（Ｉ期）の発表・・・自身の研究課題に関する実験の中期的スケジュール（Ｉ期）を立案できるようになる
４．自身の研究課題に関する論文の検索・発表（１）・・・研究課題に関する日本の文献資料を収集し適切に発表することができるようになる
５．自身の研究課題に関する論文の検索・発表（２）・・・研究課題に関する海外の文献資料を収集し適切に発表することができるようになる
６．自身の研究課題に関する総説の作成・発表（１）・・・研究課題に関する複数の文献を渉猟し、ミニレビューを作成できるようになる
７．自身の研究課題に関する総説の作成・発表（２）・・・研究課題に関するミニレビューについて発表し、ディスカッションすることで質疑応答能力を高めることができる
８．実験中期計画（Ｉ期）に基づいた実験の実施・・・研究課題に基づいた実験（Ｉ期）を実施することができる
９．実験中期計画（Ｉ期）に基づいた実験の結果の解析・・・研究課題に基づいた実験（Ｉ期）の結果に対する適切な解析を行うことができる
１０．実験中期計画に基づいた実験（Ｉ期）の進捗報告・・・実験結果（Ｉ期）の適切な考察と議論ができるようになる
１１．実験中期計画に基づいた実験（Ｉ期）の問題点の抽出・・・自身の実験結果（Ｉ期）に関する客観的な課題を抽出することができるようになる
１２．実験結果に基づいた学会発表の準備（日本語・ポスター発表）・・・一連の実験結果を総合し、日本語でのポスター発表ができるようになる
１３．実験結果に基づいた学会発表の準備（日本語・口頭発表）・・・一連の実験結果を総合し、日本語での口頭発表ができるようになる
１４．実験結果に基づいた論文の準備（日本語）・・・一連の実験結果を総合し、日本語で論文を作成できるようになる
１５．実験結果に基づいた論文の完成（日本語）・・・一連の実験結果を総合し、日本語で論文を完成できるようになる

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前に自信が選んできた学術論文の読解（30分程度） 授業中に出てきた問題点などの整理（30分程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
国内外の学術論文や研究書
オフィスアワー
月曜日4限目
連絡先
k4kobaya@post.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、 論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究II					単位数	2単位
授業コード	D5725	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	小林　謙一					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	栄養学					

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	プレゼンテーション（自分の研究課題の設定、目的、方法、結果、そして考察に関する理解度を評価）30点	1
2	学会における研究発表　30点	1
3	原著論文や研究ノート等の原稿　40点	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．オリエンテーション・・・学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める
２．自身の研究課題に関する実験長期計画（Ⅱ期）の発表・・・自身の研究課題に関する実験の長期的スケジュール（Ⅱ期）を立案できるようになる
３．自身の研究課題に関する実験中期計画（Ⅱ期）の発表・・・自身の研究課題に関する実験の中期的スケジュール（Ⅱ期）を立案できるようになる
４．自身の研究課題の周辺領域の論文の検索・発表（１）・・・自身の研究課題の周辺領域に関する日本の文献資料を収集し適切に発表することができるようになる
５．自身の研究課題の周辺領域の論文の検索・発表（２）・・・自身の研究課題の周辺領域に関する海外の文献資料を収集し適切に発表することができるようになる
６．自身の研究課題の周辺領域の総説の作成・発表（１）・・・自身の研究課題の周辺領域に関する複数の文献を渉猟し、ミニレビューを作成できるようになる
７．自身の研究課題の周辺領域の総説の作成・発表（２）・・・研究課題に関するミニレビューについて発表し、ディスカッションすることで質疑応答能力を高めることができる
８．実験中期計画（Ⅱ期）に基づいた実験の実施・・・研究課題に基づいた実験（Ⅱ期）を実施することができる
９．実験中期計画（Ⅱ期）に基づいた実験の結果の解析・・・研究課題に基づいた実験（Ⅱ期）の結果に対する適切な解析を行うことができる
１０．実験中期計画（Ⅱ期）に基づいた実験の進捗報告・・・自身のⅡ期に行った実験結果の適切な考察と議論ができるようになる
１１．実験中期計画（Ⅱ期）に基づいた実験の問題点の抽出・・・自身のⅡ期に行った実験の結果に関する客観的な課題を抽出することができるようになる
１２．実験結果に基づいた学会発表の準備（英語・ポスター発表）・・・一連の実験結果を総合し、英語でのポスター発表ができるようになる
１３．実験結果に基づいた学会発表の準備（英語・口頭発表）・・・一連の実験結果を総合し、英語での口頭発表ができるようになる
１４．実験結果に基づいた論文の準備（英語）・・・一連の実験結果を総合し、英語で論文を作成できるようになる
１５．実験結果に基づいた論文の完成（英語）・・・一連の実験結果を総合し、英語で論文を完成できるようになる

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前に自信が選んできた学術論文の読解（30分程度） 授業中に出てきた問題点などの整理（30分程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
国内外の学術論文や研究書
オフィスアワー
月曜日4限目
連絡先
k4kobaya@post.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、 論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究I					単位数	2単位
授業コード	D5730	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	小林　修典					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	精神機能論					

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	論文の完成度を評価する。100%	1
2		
3		
4		
5	論文の完成度を評価する。	1

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
必要に応じて指示する。
オフィスアワー
授業時に指示する。
連絡先
shusuke@post.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、 論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究II				単位数	2単位
授業コード	D5735	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小林　修典				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神機能論				

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	知識・技能／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	論文の完成度を評価する。100%	1
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
必要に応じて指示する。
オフィスアワー
授業時に指示する。
連絡先
shusuke@post.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、 論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究I				単位数	2単位
授業コード	D5740	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	戸田　雅裕				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1		
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
連絡先
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、 論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究II				単位数	2単位
授業コード	D5745	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	戸田　雅裕				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1		
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
連絡先
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、 論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究I				単位数	2単位
授業コード	D5750	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	林　泰資				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態					
研究分野（大学院）					

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1		
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
連絡先
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、 論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究II				単位数	2単位
授業コード	D5755	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	林　泰資				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態					
研究分野（大学院）					

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1		
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
連絡先
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、 論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究I					単位数	2単位
授業コード	D5770	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	杉山　博昭					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	人間社会論					

本授業の概要

博士論文の作成に向けて、研究計画を明確にし、実際に研究を進めていくための能力を身につける

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業で取り組み　20%	1
2	レポート課題　　30%	1
3	論文作成　　50%	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション
2　研究テーマの説明
3　研究テーマの検討
4　研究テーマについての先行研究
5　先行研究の批判的分析
6　先行研究の課題
7　研究方法の検討
8　テーマに関する文献調査
9　テーマに関する保存資料調査
10　テーマに関する社会調査
11　史料批判
12　研究概要の構想
13　研究概要の検討
14　研究概要の批判的議論
15　研究テーマの確定

定期試験
レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
指定した文献を熟読し、その概要を整理しておく。授業後は授業時の議論について振り返り、概要をまとめる。これにはそれぞれ2～3時間要する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
研究テーマに関連する文献を指示する。
オフィスアワー
オフィスアワー　火曜2限 そのほか、いつでも研究室を訪問してかまわない。
連絡先
sugiyama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究II					単位数	2単位
授業コード	D5775	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	杉山　博昭					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	人間社会論					

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業時の課題　　50%	1
2	期末レポート　　50%	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　研究概要の報告
2　研究方法の確認
3　研究の進行状況のチェック
4　研究概要についての検討
5　論文作成への助言
6　論文の序論部分の検討
7　先行研究の評価の妥当性
8　研究目的の妥当性について
9　論文の全体構成
10　論文の展開
11　論文の前半部分の検討
12　論文の中盤の検討
13　結論の検討
14　全体の検討
15　今後の課題

定期試験
期末にレポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
個別の質問、相談に対応する、
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
指定した文献を熟読し、その概要を整理しておく。授業後は授業時の議論について振り返り、概要をまとめる。これにはそれぞれ2～3時間要する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
随時検討し、指示する。
オフィスアワー
火曜2限
連絡先
sugiyama@poat.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究I					単位数	2単位
授業コード	D5780	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	長濱　統彦					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1		
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
連絡先
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究II				単位数	2単位
授業コード	D5785	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	長濱　統彦				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1		
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
連絡先
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究I				単位数	2単位
授業コード	D5790	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	湯澤　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神機能論				

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1		
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
水曜日３限
連絡先
yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究II				単位数	2単位
授業コード	D5795	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	湯澤　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神機能論				

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1		
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
水曜日３限
連絡先
yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究I				単位数	2単位
授業コード	D5800	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小田　久美子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神機能論				

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	知識・技能／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業時の課題　50%	1
2	期末課題　50%	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。
授業計画
第 1 回：論文の構成
第 2 回：文献・資料の調査方法
第 3 回：参考文献・資料の引用
第 4 回：論理の構築と日本語表現
第 5 回：主題の選定
第 6 回：描画発達に関する先行研究（国内）
第 7 回：描画発達に関する先行研究（海外）
第 8 回：先行研究の概観
第 9 回：研究計画の作成①（背景と目的）
第 10 回：研究計画の作成②（方法と内容構成）
第 11 回：文献の整理①美術教育関連図書
第 12 回：文献の整理②描画心理学関連図書
第 13 回：文献の分析①幼年造形教育
第 14 回：文献の分析②図画工作科教育
第 15 回：文献の考察
定期試験

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業開始後の計画にしたがった円滑な進行を可能にするために、十分な準備（毎回60分）をして臨むことが求められる。準備の内容は書く授業ごとに通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
オフィスアワーは、授業時に指示する。
連絡先
oda9@post.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究II				単位数	2単位
授業コード	D5805	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小田　久美子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神機能論				

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成し、学位を取得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題提出30%	1
2	口頭発表30%	1
3	定期試験40%	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。

授業計画

第 1 回：文献の考察
第 2 回：資料の整理
第 3 回：資料の分析と考察
第 4 回：文献および資料の分析と考察
第 5 回：論究と執筆①問題の所在
第 6 回：論究と執筆②先行研究
第 7 回：論究と執筆③内容構成
第 8 回：論究と執筆④分析方法
第 9 回：論究と執筆⑤分析と考察
第 10 回：論究と執筆⑥検証と解明
第 11 回：論究と執筆⑦総括的考察
第 12 回：論究と執筆⑧全体の校閲
第 13 回：註・参考資料・文献の確認
第 14 回：アブストラクト作成
第 15 回：総括と講評
定期試験

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業開始後の計画にしたがった円滑な進行を可能にするために、十分な準備（毎回60分）をして臨むことが求められる。準備の内容は書く授業ごとに通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
オフィスアワーは、授業時に指示する。
連絡先
oda9@post.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行い、論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究I					単位数	2単位
授業コード	D5810	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	吉金　優					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	保健栄養論					

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	ディベート

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	論文内容（100%）	1
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と協議により実験・論文作成指導を進める。

定期試験
論文内容
試験のフィードバックの方法
常に研究内容に関して議論する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
常に研究内容について考えておく。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
質問・ディスカッションは随時対応する。
連絡先
yyoshikane@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究を深めるとともに，積極的に学会活動に参加し，研究発表を行い，論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究II				単位数	2単位
授業コード	D5815	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	吉金　優				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	保健栄養論				

本授業の概要

それぞれの専門領域における博士論文作成のための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	ディベート

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	査読制度をもつ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	論文内容（100%）	1
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と協議により実験・論文作成指導を進める。

定期試験
論文内容
試験のフィードバックの方法
常に研究内容に関して議論する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
常に研究内容について考えておく。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
質問・ディスカッションは随時対応する。
連絡先
yyoshikane@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究を深めるとともに，積極的に学会活動に参加し，研究発表を行い，論文や研究ノート等の投稿を行うこと。

課題研究I					単位数	2単位
授業コード	D5820	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	日下　紀子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	精神機能論					

本授業の概要

学生の専門領域において、学生が自ら設定する研究テーマに関連する最新研究や文献を検討し、解明する。そのうえで見出した課題に対して適切な研究法を明らかにする。
研究法ならびに研究の方向性を確認したうえで研究をすすめ、さらに深化した独創性のある研究、博士学位論文作成に至るための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	学術学会活動にて研究発表を行う。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	査読制度を持つ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	研究に関する関連する高度で幅広い専門的識見を有するために、先行研究をレビューし、論理的で批判的にも思考するなかで独自の問いを見出し提示することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	学術学会活動に参加し、研究発表を行う。３0%	1／2／3
2	査読制度を持つ学会に論文を投稿する。30%	1／2／3
3	期末課題レポート　40%	3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から、学生の専門領域における現代社会における臨床的課題、心理社会的発達課題との関連について討議し、それらの背後にある心理力動や関係性について説明する。学生自身は、自らの経験と照合しながら多面的・多角的に考えられるようにディスカッションを行い、臨床現場から導き出された最新の知見や研究、文献をとりあげ、臨床的・実践的に考え検討していく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。
１．自身のこれまでの研究の振り返り
２．研究テーマの発見
３．関連する先行研究文献抄読
４．関連する先行研究文献レビュー
５．関連する先行研究の問題提起
６．問題と目的の確立
７．研究法の計画
８．研究倫理の確認
９．本調査・研究の実施
10．本調査・研究の結果処理ならびに検討
11．本調査・研究の考察
12．総合的な考察
13．本研究の限界と今後の課題
14．研究発表にむけて
15．論文投稿にむけて

定期試験
期末課題レポート
試験のフィードバックの方法
レポートの返却
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習としては、研究課題に関する先行研究の資料を調べること。少なくとも1時間以上 復習としては、授業で討論したことに関する疑問について文献資料にあたり、自分なりの答えを見つけるよう努力すること。1時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
文献資料については、授業で配布する、あるいは適宜紹介する。
オフィスアワー
木曜日4限
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行うこと。論文や研究ノート等の投稿を主体的に、積極的に行うこと。 いうまでもないことであるが、研究倫理を常に確認し遵守すること。

課題研究II				単位数	2単位
授業コード	D5825	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	日下　紀子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神機能論				

本授業の概要

学生の専門領域において、学生が自ら設定する研究テーマに関連する最新研究や文献を検討し、解明する。そのうえで見出した課題に対して適切な研究法を明らかにする。
研究法ならびに研究の方向性を確認したうえで研究をすすめ、さらに深化した独創性のある研究、博士学位論文作成に至るための継続的指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	学術学会活動にて研究発表を行う。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	査読制度を持つ学会誌に投稿しうるレベルの論文を作成する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	研究に関する関連する高度で幅広い専門的識見を有するために、先行研究をレビューし、論理的で批判的にも思考するなかで独自の問いを見出し提示することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	学術学会活動に参加し、研究発表を行う。３0%	1／2／3
2	査読制度を持つ学会に論文を投稿する。30%	1／2／3
3	期末課題レポート　40%	3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から、学生の専門領域における現代社会における臨床的課題、心理社会的発達課題との関連について討議し、それらの背後にある心理力動や関係性について説明する。学生自身は、自らの経験と照合しながら多面的・多角的に考えられるようにディスカッションを行い、臨床現場から導き出された最新の知見や研究、文献をとりあげ、臨床的・実践的に考え検討していく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

学生と研究指導担当教員の協議により指導を進める。
１．自身のこれまでの研究の振り返り
２．研究テーマの発見
３．関連する先行研究文献検索
４．関連する先行研究文献抄読
５．関連する先行研究および基礎理論の振り返り
５．問題提起
６．問題と目的の確立
７．研究法の計画
８．研究倫理の確認
９．研究法の試行
10．試行調査・研究の結果
11．研究法の確立
12．本調査・研究の実施
13．本調査・研究の結果処理ならびに検討
14．本調査・研究の考察
15．本調査・研究の中間発表

定期試験
期末課題レポート
試験のフィードバックの方法
レポートの返却
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習としては、研究課題に関する先行研究の資料を調べること。少なくとも1時間以上 復習としては、授業で討論したことに関する疑問について文献資料にあたり、自分なりの答えを見つけるよう努力すること。1時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
文献資料については、授業で配布する、あるいは適宜紹介する。
オフィスアワー
木曜日4限
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究を深めるとともに、積極的に学会活動に参加し、研究発表を行うこと。論文や研究ノート等の投稿を主体的に、積極的に行うこと。 いうまでもないことであるが、研究倫理を常に確認し遵守すること。